

透析施設紹介

社会医療法人名古屋記念財団 新生会第一病院



院長 小川 洋史

新生会第一病院は一九七一年に名古屋市瑞穂区に創立されました。創立当初の名称は名古屋クリニックであり、透析患者の生命維持、社会復帰の促進を掲げていました。

名古屋クリニックは、一九七九年に新生会第一病院へ改称され、更に二〇一八年五月一日、名古屋市天白区高宮町に新築移転をいたしました。4階のリハビリ室、病室からは、北西の方面は名古屋駅周辺の高層ビル群、さらには伊吹山まで展望できます。また、北の方面には八事地区の大学校舎、東山タワーを一望できます。透析室は2階、3階にあります。移転後の透析ベッド数は100床、入院ベッド数144床「一般病床48床（地域包括病床

20床）、療養病床96床」です。当院の機能としては、亜急性期、慢性期患者の機能回復、在宅復帰をめざしています。腎臓病、血液浄化療法、ブラッドアクセス、糖尿病、関節リウマチの専門分野と地域医療（一般内科）を診療分野としています。機能を活用し、名古屋市東部地域の地域包括ケアの一端を担いたいと考えています。急性期病院、高度急性期病院との連携、近隣クリニック・介護施設との連携を、より緊密に進めていきたいと思っています。

腎不全治療領域では、設立当初より生命予後の改善、社会復帰を掲げ、一九七二年より在宅血液透析を施行しています。現在、離島の患者様を含め、東海地方を中心に38名の方が当院の在宅血液透析を利用しています。



在宅血液透析の一番のメリットは、透析の自由度です。短時間頻回透析、長時間透析さらには長時間頻回透析まで可能です。臨床的には無愁訴透析となり、生命予後は良好です。また、社会復帰率は高く、十分に仕事をこなしています。在宅血液透析患者は、二〇一五年十二月で635名と、日本の透析患者全体の0.2%であり、まだ、かなり少ないのが現状です。より高いQOLが問われる時代からこそ、在宅血液透析の果たす役割は大きいと考えます。在宅血液透析が、施設透析、CAPD、移植に次ぐ、第4の選択肢となる日がくることを切望しています。

ブラッドアクセスについては、年間、約一〇〇〇例のシャント治療を行っています。血管内治療が約80%、外科手術が約20%を占めています。新病院となり、手術室は2部屋に増え、スタッフの体制も充実しつつあります。血液透析にとって重要なブラッドアク

セスの問題に積極的に関与していきたいと考えています。

当院におきましては、創立以来、社会復帰への患者支援の体制の充実を図ってきました。現在、リハビリ室は理学療法士8名、作業療法士4名、言語療法士2名、臨床栄養科は6名、ソーシャルワーカー室4名の体制を組んでいます。最近の透析患者の問題として、PEW症候群、サルコペニアに代表される低栄養、筋肉量減少、筋力低下の問題がクローズアップされています。当院はこの問題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

今回の新築移転は一九七一年創立以来のChangeです。信頼される病院をめざし、スタッフ一人一人がChallengeです。今後とも、御支援、御指導よろしくお願ひ申し上げます。

